



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

（第二三九号）

小雪しょうせつ 十一月二十二日

神恩太鼓

二十四節気では早くも小雪、といってもこのあたりでは初雪の観測は平年十二月二十二日（津気象台）となっていますから、実際には一カ月前くらいのことです。

寒い朝が多くなりましたが、半袖姿で、稽古けいこに励む猛者たちがいます。おかげ横丁の神恩太鼓しんおんたいこのメンバーです。

土日曜を中心に太鼓櫓たいころうで演奏を披露する神恩太鼓はおかげ横丁の誕生とともに始まりました。式年遷宮の前年の平成二十四年に第二期メンバーに一新し、今年六月から、新潟県佐渡を拠点に活躍する太鼓芸能集団「鼓童こどう」の見留とめ知弘さんに指導を受けています。

「しっかりと打ち込めるようになり、太鼓が鳴り出してきました」と見留さん。基本的な打ち方から指導して約半年、音が大きくなってきたと言います。

「鼓童」の太鼓に魅せられ、高校卒業後入団し舞台に立つようになって二十六年という見留さん。太鼓は誰でもバチで叩けば音は出るのですが、プロの演奏とはどのようなものか伺いました。

「プロはバチで当てるのではなく、打ち込むのです。太鼓は音階がありませんから、音の強弱で表現します。強と弱の中間がないといけないのです。それこそバチ先一センチの高さの微弱な音も出します」

非日常の舞台では、例えばバチを落としたり、バチとバチが当たったりというミスができれば、聴衆は現実を引き戻されるため小さなミスも許されない、それには稽古が大事だと教えてくれました。

今あることを神様に感謝する神恩感謝を太鼓の音で表現する神恩太鼓。見留さんの指導もあって、ますます音が響くように感じます。ドンドンドンドン、メンバー三人の稽古に熱が入ります。

文 千種清美

